

三人は裏道をいそいで名主の家にいった。官軍は部落の所々に休んでいる。

「名主様、たのみがごじます。」

「何だ。」

「わっしら、大川原を何とか守りたいと思って。」

「どうしろというのだ。」

「ハイ、アノ二・三日前からの雨で大川原も野上川も大へん水が出ています。だから官軍が大川原を通して野上にゆくのはむりだと。」

「そうか、わかった。できるかどうかはわからんが、やってみよう。」

三人は急いで大川原に帰った。そしてどろぼうに入られないように見張りをした。

官軍は夜の森に出て新田原（西願寺附近）で仙台兵を破った。負けた仙台兵は熊町に火をつけて一軒残らず焼いてしまった。

しかし大川原は助かった。青年の名は清太、覚右エ門、杵右エ門といった。